

## MAKEUP COSMETICS

**Publication number:** JP54151139 (A)

**Also published as:**

**Publication date:** 1979-11-28

JP61026764 (B)

**Inventor(s):** MURUI YUKIO; SAITOU MASAAKI; AKIYAMA  
YASUKO; KOSHIBA SUZUKO; NARA  
MICHIKO; MORIKAWA YOSHIHIRO

**Applicant(s):** SHISEIDO CO LTD

**Classification:**

**- international:** A61K8/00; A61K8/06; A61K8/81; A61Q1/00;  
A61Q1/02; A61Q1/04; A61Q1/10; A61Q1/12;  
A61Q5/10; A61K8/00; A61K8/04; A61K8/72;  
A61Q1/00; A61Q1/02; A61Q1/12; A61Q5/10;  
(IPC1-7): A61K7/02

**- European:** A61Q1/00; A61K8/06; A61K8/81K4

**Application number:** JP19780058028 19780516

**Priority number(s):** JP19780058028 19780516

### Abstract of JP 54151139 (A)

**PURPOSE:** An emulsion of novel copolymer is incorporated to impart the adequate hardness and flexibility and improve the water resistance and adhesion to skins.

**CONSTITUTION:** An emulsion of a copolymer from at least one of acrylate ester monomers whose ester part has 4-18, preferably 4-8 carbon atoms, such as butyl acrylate, 2-ethylhexyl acrylate, and at least one of methacrylate ester monomers, such as ethyl or butyl methacrylate, is incorporated by 20-50% or 10-25% based on the effective resin components. The product can form continuous coating films, thus being suitable as make-up cosmetics.

Data supplied from the [esp@cenet](mailto:esp@cenet) database — Worldwide

## ⑪公開特許公報(A)

昭54-151139

⑫Int. Cl.<sup>2</sup>  
A 61 K 7/02識別記号 ⑬日本分類  
31 B 0⑭内整理番号 ⑮公開 昭和54年(1979)11月28日  
7432-4C⑯発明の数 1  
審査請求 有

(全 8 頁)

## ⑰メイクアップ化粧料

⑱特 願 昭53-58028

⑲出 願 昭53(1978)5月16日

⑳發明者 無類井行男

横浜市緑区竹山4丁目2番地  
竹山団地4204-422

同 喜藤雅昭

横浜市港南区日野町4288番港  
南台めじろ団地47-102同 秋山靖子  
東京都目黒区駒場1丁目1番7

㉑發明者 小柴清子

東京都練馬区石神井台6丁目17

番4号

奈良道子

町田市つくし野3丁目11番3号  
森川良広

横浜市戸塚区矢部町1666番55号

㉒出願人 株式会社資生堂

東京都中央区銀座七丁目5番5  
号

㉓代理人 弁理士 田所昭男

## 第 一 輯 告

## 3. 発明の名称

メイクアップ化粧品

## 2. 特許請求の範囲

- ① ニュートラル感の皮膚感覚をもつて他のアクリル樹脂エスセルセノマーの1種または2種以上と、メタクリル酸エチルセノマーの1種または2種以上と、メタクリル酸エチルセノマーの1種または2種以上とから得られる共聚合ガリマーアルゴンを配合したことを特徴とするメイクアップ化粧料。
- ② メタクリル酸エスセルセノマーがメタリメタクリレートである特許請求の範囲第1項記載のメイクアップ化粧料。
- ③ メタクリル酸エスセルセノマーが、エチルメタクリレートである特許請求の範囲第2項記載のメイクアップ化粧料。
- ④ メタクリル酸エスセルセノマーが、ブチルメタクリレートである特許請求の範囲第3項記載のメイクアップ化粧料。
- ⑤ アクリル酸エスセルセノマーが、ブチルアクリ

リレートとジエチルヘキシルアクリレートとの2種を含む特許請求の範囲第1項乃至第4項のいずれかに記載のメイクアップ化粧料。

⑥ 出発合ポリマーコニカルゴンの配合割が約～50重量%である特許請求の範囲第1項乃至第4項のいずれかに記載のメイクアップ化粧料。

⑦ 有効樹脂分が約～40重量%である特許請求の範囲第1項乃至第4項のいずれかに記載のメイクアップ化粧料。  
参考文献

## 3. 発明の詳細な説明

本発明は、新規性をポリマーアルゴンを配合してなるメイクアップ化粧料に関するものであり、特にメイクアップ化粧料として好適なものである。

一般にメイクアップ化粧料。既知、アメイクアップ化粧料はその形態によって、本系、油系、粉系に分類されるが、製品を保護する基材としては、使用し易いこと、使用感が良いこと、製品の安定性が良いこと、皮膚に対して安全であること等に加えて、特に化粧もちの良いことが挙げられ

る。

從來のメイクアップ化粧料は化粧水をも含む。汗液、皮脂などの人体分泌物の作用により、また雨露、アルコールの水、海水などの水分の作用により、また、使用する他の化粧料との相互作用により、さらにはまた、手や擦拭による摩擦などの物理的作用によっても化粧くずれを起すことが多く、油性タイプや油基エマルジョンタイプでの改善を改善するものもみられるが、(特公昭52-27685、特開昭52-90637)、水系皮膜タイプのいし、その他の水系タイプで満足なものはみられなかった。

例えば、水系のものは耐水性物質を多量に含有するため、汗、涙、雨水など耐水性が不足である。又、油系のものは逆に皮膜や供用する化粧料の油分等の影響をうけて化粧くずれを起す、即ち耐水性が不足である。又、乳化系においても耐水性および耐油性がいずれも充分ではない。この化粧くずれは常に水や油との相互作用によるばかりではなく皮膚の皮膚の動き、手を使ひは、  
機械による摩擦又はによる化粧くずれも大きな因子で

あり、即ち肌への吸着性が重要なポイントである。これまでこれらの場合を満足する製品を開発すべく種々の被毛が化粧品研究者によって進められてきたがすべての条件を満足したものは未だでは、現在まで皆無である。

これらの製品形態のうち、ポリマー系エマルジョンを用いた皮膜タイプのメイクアップ化粧料は使いやすさや化粧効果等にすぐれた性質をもつため広く愛用される製品の一つである。

然來のこの種の化粧料底部分は皮膜形態として天然のラテックス又は水溶性高分子や乳化剤を用いた乳化剤合併によるとポリマー系エマルジョンが用いられてきたが、これらの高分子物質自体の耐水性が悪いため化粧料として充分な耐水性を得ることが困難であった。

この点を解決するために、例えば、有機酸50-1-280452号公報に記載される、樹脂、半樹脂、或は乳化剤等を用いて乳化剤が水相及び油相(2:37:60)に分離して水へゼリースマルジョン日本語版)が配慮されていなかったために、必ずしも完全なものと

本発明者は、耐水性の優れた新規をポリマー、第一5632572号と日本特許開闢48-39347号がある。

マジンを用いることにより、前記の如本欠点のない、優れたメイクアップ化粧料を完成するに至ったものである。

耐水性の優れたポリマー系エマルジョンの開発試験は接着剤、接着剤でも直接試験がなされ多くのエマルジョンが開発されているが、化粧料用としては特に次の二点を兼ねねなくてはならないため他の用途のものは使用できず、化粧品底層の開発が必要不可欠である。

① 人体に対して有害な成分が存在しないこと。

〔カラーリン、ホルムアルデヒド等〕

② 製造者に対する安定であること。

③ すぐれた皮膜特性を有すること。

④ 透視的な皮膜を形成すること。

⑤ 表面が適度の硬さと柔軟性をもつこと。

⑥ 成分への密着性が良いこと。

⑦ 皮膜が耐水性にすぐれていくこと。

ポリマー系エマルジョンを化粧品に用いた公知技術には、例えば、英國特許第1110640号、米国特許

5632572号及び日本特許第48-39347号がある。

英國特許第1110640号はアクリル酸エチル、メタ

クリル酸ブチル、メタクリル酸などの中性、無毒

アクリル酸エヌカルボン酸(3:2:1モル比)を含む皮膜化並

とくに耐久性、耐汚染性、耐汚れ性、耐水性液状アイメ

イクアップであり、米国特許第5632572号は、上

の英國特許と同一出願人によるものであるが、ア

クリル酸ブチル、アクリル酸エチル、メタクリル

酸ブチルおよびメタクリル酸が20:25:80:5か

ら成るポリマー系エマルジョンを3-ヘキサノンを含む耐水性、耐汚染性、耐水性アイクイナーである。

また、日本特許第48-39347号は、合成樹脂エマルジョン、特に堆積ビニリデンと堆積ビニルの共重合エマルジョンを30モル比4モルメタクリル酸メタカルボリマー系エマルジョンを約5モルを主体とする

液状溶液の製法であるが、これらはいずれも耐水性、安全性の点で満足されるものではない。

なぜならば、これら公知技術で使用されているポ

リマー系エマルジョンは、たとえば米國、英國特許

ではボリマー樹脂中で耐水性の悪いエチルアクリレート及びメタクリル酸がかなり多量に含有されているため、これらボリマー-エマルジョンより得られる皮膜は極めて耐水性にとぼしく又、化粧料中の使用量が少ないとから化粧品も効果、特に耐水性への効果は全く期待できない。又、日本特許特開昭和-35344号の合衆国特許エマルジョンでは樹脂液波自体が人体に対する安全性の点で問題が多く化粧料用界面として好ましくない。

本発明は乳化剤を用いた物語をボリマー-エマルジョンを使用することによって上記の如き欠点のない優れたメイクアップ化粧料を提供するものである。

(以下余白)

の濃度が%以上になると得られたボリマー-エマルジョンに良いが有るため、化粧料への配合条件に多少の制限が加えられる。

従って、エスチル部の濃度は4~8が好ましく、中でも2-エチルヘキシルアクリレートが最も好ましい。

上記のアクリル酸エスチルモノマーと併用するモノマーとしては、单独混合した際のMFT(最低被膜形成温度)が0°C以上であるメタルメタクリレート(MMA)、エチルメタクリレート(EMA)、ブタノメタクリレート(BMA)等のメタクリル酸エスチルが使用される。ビニルアセテート、ステレン、アクリロニトリル、塩化ビニル等は、皮膚安全性、耐水性、良い等に欠点があり、使用すべきではない。

アクリル酸エスチルモノマーに混入されるメタクリル酸エスチルモノマーの量は、アクリル酸エスチルモノマーの種類、製造される化粧料の製品形態あるいは、化粧料に配合される他の成分、例えば粉末量や油分によって変化し、一概に規定す

る事はできないが、例えば、BMAの場合であれば、アクリル酸エスチルモノマー/MMA=5/5~8/2好ましくは6/4~7/3であり、BMAの場合には、アクリル酸エスチルモノマー/BMA=3/7~7/3好ましくは4/6~6/4である。

アクリル酸エスチルモノマーとしては、ブチルアクリレート(BA)、イソブチルアクリレート(IsoBA)、ヘキシルアクリレート(HA)、2-エチルヘキシルアクリレート(2EHA)等が含まれるが、特に2-エチルヘキシルアクリレートを優先で、または他のアクリル酸エスチルモノマーと併用することが最も好ましい。

エスチル部の濃度が%以下であるメタルアクリレートやエチルアクリレートを使用した場合には、耐水性が極めて悪く、良好なメイクアップ化粧料は作り得ない。また、エスチル部の濃度が%以上のアクリル酸エスチルは皮膚性が悪く、エマルジョン集合には適さない。また、エスチル部

のこととはできないが、例えば、BMAの場合であれば、アクリル酸エスチルモノマー/MMA=5/5~8/2好ましくは6/4~7/3であり、BMAの場合には、アクリル酸エスチルモノマー/BMA=3/7~7/3好ましくは4/6~6/4である。

一般的に言うならば、アクリル酸エスチルモノマー/メタクリル酸エスチルモノマー=5/5~8/2であり、これをボリマーのモル比でみるとならば約0.1~0.2で、好ましくは0.1~0.2である。

エマルジョンの合成は、一般的な公知の乳化重合法によって行なうことができる。即ち、混合反応装置に乳化剤の水溶液を仕込み、その後50~80°Cに加熱した条件下で、モノマー及び混合開始剤(例えば著者化水素又は著者アンモニウム等)を数時間におよべて滴下しががら混合させ、しばらく熟成を行なった後、攪拌下にて反応浴モノマーを除去する。

一般的には、乳化剤としてアニオン及び非イオンの乳化剤を0.5~5%、又、混合開始剤は0.05

～1.0%濃度を使用し、混合反応を完全に行なう。混合以上では少量のカルボキシ含有モノマー（例えば、アクリル酸、メタクリル酸等）の存在が好ましいことは従来技術から得られていない。

次に、本発明式用いたがリマーエマルジョンの製造例を示す。

#### 〔参考例1〕

500 mlの四つ口フラスコ中底水150 mlを入れ、30 gのボリオキシエナレンラウリカエーテルと65 gのウカリルオカブートを溶解させる。アルカリアクリレート105 ml、メタクメタクリレート45 ml、アクリル酸2 mlを混合したモノマーと30 gの過硫酸アンモニウム水溶液5 mlとを各々数回に分けて、-40℃で加温したフレスコの中底水下し、室温保証中、かきまぜ速度250 rpm（ねじり管がくほん紙）で1時間、混合反応を行なう。

その後、更に、時間加熱攪拌を行ない、200 rpmで減圧脱気を行ない、未反応モノマーを除去する。冷却後、セロファン透析袋に移し透析を行ない

イオン性不純物を除去して、物理性良好なギリマーエマルジョンを得た。

#### 〔合成例2〕

500 ml四つ口ルバブルフラスコ中底水150 mlを入れ、45 gのボリオキシエナレンラウリカエーテルと65 gのウカリルオカブートを溶解させる。アルカリアクリレート45 ml、メタクメタクリレート45 ml、アクリル酸2 mlを混合したモノマーと30 gの過硫酸アンモニウム水溶液5 mlとを各々数回に分けて、-40℃で加温したフレスコの中底水下し、室温保証中、かきまぜ速度250 rpm（ねじり管がくほん紙）で1時間、混合反応を行なう。

その後、時間加熱攪拌を行ない、200 rpmで減圧脱気を行なう。

冷却後、セロファン透析膜を用いて透析を行ない、イオン性の不純物を除去すると物理性の良好なギリマーエマルジョンを得られる。

次に、ギリマー組成の範囲を明確にするため、表-1に各種モノマー比におけるギリマーエマルジョンの物性値を記した。

（以下略）

表-1 各種モノマー比におけるギリマーエマルジョンの実験特性

モノマー比	固形	M.-%	ギリマーエマルジョンの		皮膜 柔軟性	耐水性	耐油性	耐 溶剤性
			溶解度 溶媒	溶解度 溶媒				
北	BA/BMA	20/80	-5.5	○	○	×	×	△
	SA/BMA	80/20	-3.4	○	○	○	○	○
	BA/MMA	60/40	-2.8	○	○	○	○	○
東	BA/EVA	40/60	-1.4	○	○	○	○	○
	BA/PEO	50/50	-2.5	○	○	○	○	○
	BA/PMMA	40/60	-5.2	○	○	○	○	○
西	BA/PMMA	50/50	-0.8	○	○	○	○	○
	BA/PEO	60/40	-6.6	○	○	○	○	○
	BA/PEO	40/60	-1.2	○	○	○	○	○
本 國 製 造 業	BA/BMA	70/30	-3.3	○	○	○	○	○
	BA/PMMA	25/75	-1.6	○	○	○	○	○
	ERHA/BMA	60/40	-1.0	○	○	○	○	○
南	BA/PMMA	60/40	-1.8	○	○	○	○	○
	ERHA/PMMA	10/90	-1.8	○	○	○	○	○
	ERHA/PMMA	40/60	-8.0	○	○	○	○	○
中	BA/SEBA/BMA	40/40/20	-0.4	○	○	○	○	○
	BA/SEBA/BMA	40/40/20	-0.6	○	○	○	○	○
	BA/SEBA/BMA	30/40/30	-1.0	○	○	○	○	○
北	BA/SEBA/BMA	30/40/30	-2.7	○	○	○	○	○
	BA/SEBA/TMA	40/40/20	-1.7	○	○	○	○	○
	BA/SEBA/TMA	30/40/30	-1.74	○	○	○	○	○
東	BA/SEBA/TMA	30/30/40	-1.8	○	○	○	○	○
	BA/SEBA/TMA	20/30/50	-1.8	○	○	○	○	○
	BA/SEBA/TMA	20/30/50	-1.8	○	○	○	○	○
西	BA/SEBA/BMA	30/30/40	-1.8	○	○	○	○	○
	BA/SEBA/BMA	20/30/50	-1.8	○	○	○	○	○
	BA/SEBA/BMA	20/30/50	-1.8	○	○	○	○	○

表-1 の評価基準は次の通りである。

◎ 優めて良好

○ 良好

△ 普通

× 不良

又、表-1 の皮膜特性の評価試験法は次の通りである。

④透明性：皮膚上及び透明ガラス板に 0.5 × 0.5 cm<sup>2</sup> の巾で試料を敷布し乾燥後の透明白度を評価する。

⑤耐着性：蒸煮法にて供試品の条件にて皮膚上及び 0.5 × 2.0 × 0.05 cm<sup>2</sup> サイズのナイロン板上に試料を敷布し 30 分後の皮膜の粘着性を評価する。また皮膜剥離度を評価する。

⑥白化度：0.5 × 0.5 cm<sup>2</sup> サイズのナイロン板上に試料を敷布し 30 分間乾燥後、蒸留水中に浸漬し、1 日後、3 日後、7 日後の皮膜の白化度および剥離度を肉眼にて判定する。

⑦耐水溶性：①の白化度のサンプルについて同様にナイロン板上でサンプルの接着度合及びはがれ度合を評価する。

⑧燃焼抵抗性：温度 22°C、湿度 50% の条件下で皮膚上及び 0.5 × 0.5 × 0.05 cm<sup>2</sup> サイズのナイロン板上にサンプルを均一に散布し 30 分後の燃焼性をクロスバサゲにて皮膜を表面よりはがし評価する。

(以下重複)

このポリマー・エマルジョンをアイメイクアップ化粧品中でその用途に応じて均一～均一均一（均一均一均一）の特徴として好ましくは均一～均一使用することにより優れた製品特性をもった製品を得ることが可能である。

尚ち、ポリマー・エマルジョンのもつ上記の特性を製品特性に反映させることができるとなり、各種条件を満足するマイクロ・化粧品が得られるわけである。

製品中のポリマー・エマルジョンの添加量が过高濃度ではポリマー自身の基盤性や成分中の他の基本性添加物のためにポリマー・エマルジョンのもつ機能が発揮されない。

表-1 と表-2 のポリマー・エマルジョンの添加量をかたこと各成分の製品特性を示したものが参考量は多少好ましくは均一～均一でよい結果がえられることが判明する。以上の如く基礎活性剤、保湿コロイド等他の化粧用を用いた化粧混合法より得られる既成のポリマー・エマルジョンを添加することにより各種条件を満足するマイクロ・化粧品が得られたこと

とは文献未公知であり著者のことである。

表-2 ポリマー・エマルジョンの添加量と製品特性

	A	B	C	D	E	F	G
⑨(B <sub>4</sub> /P <sub>2</sub> E <sub>3</sub> H <sub>3</sub> /MMA)	0.0	1.0	1.5	2.0	4.0	5.0	6.0
糊	グリセリン	0.0	+	+	+	+	+
イオン交換水	7.5	6.5	6.8	7.1	7.5	7.8	7.6
トコフェロリチルジカルボン酸	1.0	+	+	+	+	+	+
ジムルクシナシカセリオール	1.0	1.0	0.5	0.5	0.5	0.4	0.3
ベントナイト	0.5	0.5	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5
オリーブオイル	6.0	+	+	+	+	+	+
界面活性剤（混合レーキ）	1.0	+	+	+	+	+	+
シリコンオイル（高分子化）	1.0	+	+	+	+	+	+
皮膜形成能	×	△	△	○	○	○	○
見への接着性（滑らかさ）	×	×	△	○	○	○	○
耐水性	×	×	△	○	○	○	○
耐熱性	✓	○	○	○	○	○	○
化粧のおとしやすさ	○	○	○	○	○	○	×

(\*効果がみ出されてない)

△：効果が多少みられる

○：良好

次に本発明による化粧料の使用効果について述べる。

本報では化粧料粉末マイメタリック化粧粉の臨時ににおける化粧粉ものの向上を目的としたものであるから、実際の化粧粉ものの効果を評価する必要がある。このため、以下に水すりを実験用タストとして効率測定法により使用効率を調べてみた。

(テクスチャ) 様式記載の実施例は、相当するビーカー・オーバル・タイプアライナーパーツ及び

卷之十

- ④ バキル 50名による実験用テスト  
⑤ 動態鑑定による評価

15×45mmの大きさのナイロン板にサンプルを貼りし時間経過で乾燥後15×50mmサンプル替りタラントビーズを貼り入れ上記のサンプルを貼りシメイカーで封筒状態にして実験の実験条件を評価する(実験結果)

卷二

試験 試験項目	本商品 ガラス・ガラス	市販品 A ガラス・ガラス	市販品 B ガラス・ガラス	市販品 C ガラス・ガラス
強度	△	△	×	×
吸水性	○	△	×	△
表面に対する接着性	○	×	×	×
底面に対する接着性	○	○	○	○
耐熱性	○	○	△	△
耐水性・耐酸性	○	×	*	*

卷之三 藥師菩薩滅度會讚文

○良野  
乙曾源良  
乙不善良  
莫善不善

後…3は市販品アリティナー及び本系用で得られたポリマースマカジンを使用した皮膚タイプアリティナーの薬品特性和比較したものであり明らかに効果が認められている。

（以下參照）

卷之三

#### 実施例二、薬物吸収タイプマイクロチャーブ

〔製法〕 イオン交換水にガリニン酸ソーダ及びガリオキシエチレンソルビキンセノレートを溶解し、これにカーボンブック墨色酸化紙及び二重化サランを適量混合し、コロイドミルを用いて均一な粉体、分散させる。

これにグリセリン及び増粘剤を添加し、攪拌混

合しないから脂溶性ポリマーとマスクラン、防腐剤、香料を添加し、均一になるまで混合すると、黒色のペールオフタイプのアイタイナーが得られる。

## 実施例-2 クリーム状マスカラ

( 始方 )	ビースワックス	30 ( 重量比 )
	樹脂パラフィンワックス	30
	ステアリン酸	25
	鲸鲨油溶バフリン	5.0
	イオン交換水	36.0
	トリエカルアルアミン	1.0
	ポリビニルアルコール	1.0
	ペントナイト	2.0
	タクタ	2.0
	黑色顔化鉄	1.30
	ポリマーEマルジョン	2.50
( RMN/BK=40/60 )		
	樹脂合量50%	
	フルビレンジリヨール	3.0
各 部	液 量	
防腐 剤	液 量	

( 製法 ) イオン交換水にフルビレンジリヨール、

## 実施例-3 フィンディッシュ

( 始方 )	鲸鲨油溶バフリン	1.00 ( 重量比 )
	タクタ乳液体	4.0
	樹脂パラフィンワックス	3.0
	ステアリン酸	3.0
	セチルアルコール	0.5
	ソルビカンセオオレースト	1.0
	アロビレンジリヨール	2.0
	ポリエレンジリヨール	2.0
	イオン交換水	2.83
	トリエカルアルアミン	1.0
	ペントナイト	2.0

[ 学術研究 ]

ポリマーEマルジョン	3.00
( RMN/BK=40/60 → 30/70 )	
樹脂合量50%	
タクタ	3.50
黑色顔化鉄	0.5
黄色顔化鉄	2.0
赤色顔化鉄	0.5
防腐 剤	液 量
各 部	液 量

( 製法 ) イオン交換水にフルビレンジリヨール、

ポリエレンジリヨールを溶かしたペントナイト、

系増粘剤を分散させ、トリエカルアルアミンを入れて均一に分散溶解させる。

その後均一に混合してタクタ及び顔料を添加し均一に分散させる。次に溶解した油相成分をすくえ脱脂したホウ酸面に攪拌しながら、徐々に油相を加えて均一化する。

溶融後ポリマーEマルジョンを均一に混合し、その後防腐剤、香料を加えて最終のクリーム状フィンディッシュとする。

本発明は実施例にとどまらずアイメイクアップ化

[ 学術研究 ]

物質フィッシュデーション以外に口紅、パッカーボディペイント、パリオタリーム、ヒップメイクアップ化粧料や毛髪用着色料等の皮膚化粧料や顔化粧料に広く応用が可能である。

特許出願人 株式会社 黄生堂

代表者 田所昭男

## 手 段 第 正 塗 (方式)

昭和54年7月26日

著者名: 佐 谷 道 二

## ト 事件の表示

昭和54年特許権第54068号

## ル 用明の名称

マイタップ化粧料

## ド 著出をする者

著者との関係: 著出公職人

住 所 東京都中央区銀座7丁目6番5号

名 称 (195) 株式会社 賢生

代表者 山本



## ル 代 理 人

郵便番号 104

住 所 東京都中央区銀座7丁目6番5号

株式会社 賢生 室内

氏 名 (1926) 井之上 田 順 光男

(電話番号 東京 (03) 51111)

## 6 著正命令の日付

昭和54年7月1日 (昭和54年7月26日発送)

## 7 著正の対象

明細書の著明の名稱の變

## 8 著正の内容

著明の名稱を「マイタップ化粧料」と著正する。